

事業名	出流原スマートインターチェンジフォローアップ事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当あり
		施策横断的な取組との関連性	SDGs該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	会計	一般	事業計画	単年度繰返し
	課	交通政策課		款	8	新規or継続	新規事業
	係	交通政策課		科目	2	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	113	名称	目	3	義務or任意	任意の事業
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり	事業期間	開始年度	R5	実施方法
	政策	1	企業誘致を促進し産業振興で活力あるまちづくり	終了年度	-	事業分類	直営
	施策	3	出流原 P A 周辺開発の推進		-	事業分類	検査・調査事務

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	スマートインターチェンジ整備事業制度実施要綱第 5. 2 に基づき地区協議会を設置し「出流原スマートインターチェンジ」の設置に向け、必要な検討・調整を行うとともに、当該スマートインターチェンジ供用後も継続して、その管理・運営形態等について、定期的に地区協議会においてフォローアップを行う。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	スマートインターチェンジ供用後も継続して、その社会便益・安全性・利用交通量・管理・運営形態・利用促進方策等について、定期的にフォローアップし、必要に応じて見直すものとする。フォローアップは、供用後 1 年経過後速やかに 1 回開催し、以後必要に応じて実施するものとする。 (令和12年計画交通量：約2,000台/日)
-------------------------	---

（3）目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
計画交通量/台	台			1,300	1,400	1,500

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R 5 年度に行った主な活動内容)	・供用開始 1 年後の「出流原スマートインターチェンジ」周辺道路の交通量を確認するため調査を実施した。 ・地区協議会の開催を予定していたが、関係機関との日程調整が整わず開催に至らなかった。
----------------------------	---

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
国道293号線、佐野田沼線交差点	台			19,184
国道293号線、山形・寺岡線交差点	台			14,997
桐生田沼線・山形寺岡線交差点	台			6,515
事業費計	千円	0	0	1,980
一般財源	千円			1,980
特定財源（国・県・他）	千円			
（うち受益者負担）	千円			

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	R 5 年の入出車台数合計は、目標値としている1,300台/日に達しなかった。
------------------	---

（4）事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
入車台数/日	台			538	値が大きいほど良い	効果が上がった
出車台数/日	台			636	値が大きいほど良い	効果が上がった

↓選択して下さい

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用が増加した
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数2指標
	効果は変わらない指標数0指標
	効果が下がった指標数0指標
	指標全体効果が上がった

※ 1 0 万円以上の増減により判断

効果			
効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった	
費用は下がった			
費用の増減無し			
費用が増加した	○		

4. 次年度に向けた検討

（1）令和 5 年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

地区協議会の開催に至らず利用促進方策を検討することができなかった。今後地区協議会において利用促進方策の検討を行う。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和 6 年度及び令和 7 年度の取組

取組説明
☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）
利用促進策に取り組み入出車台数の増加に努める。